

参加して 三里塚へ 広島集核反

結集した20万人を三里塚へ

感想文
成田支部・A生

一九四五年八月六日、九日、広島、長崎に人類初の原爆が投下され二つの都市は瞬時にして潰滅し、二〇万人の方が亡くなり、三十七年経った現在でも被爆者の苦しみはつづいています。

広島・長崎に原爆が投下されて三十七年、核兵器の開発は激化し、今なお米ソ英仏、中国等々が核実験を行なっている。日帝も核廃棄物の海洋への投棄をはじめ、核武装化への道を多くの反対を押しきって強行しようとしています。ヨーロッパにおいて反核、平和運動が大高揚し、国内においても反核、反軍拡、反戦平和の運動が活性化し始めている今日、広島に地において、平和をねがい、戦争と暗黒の時代を拒否し、世界中から核兵器をとりのぞこうという意義のある広島集核会に私達は参加していき

ました。

3・21反核広島集核会に参加して感じた点は、①米帝レーガン政権

は、核の力で没落した米帝の復活を狙い世界を核戦争の危機にひきずり込みつつあり、一方ソ連・中国も核兵器には核兵器を対置しています。日帝も核武装化、軍事大国化、改憲、安保強化にうってできています。核戦争の危機に直面したとき、二度と広島・長崎を許さないという闘う労働者、市民学生など広範な各層の人達が全国各地より、メイン会場はもとより、各会場を埋めつくす二〇万人が大結集しました。

私達は平和を求める心、戦争を拒否することの大切さを会場を埋めつくす人波を見てはつきりみる

ことが出来ました。

②3・21広島集核会は、実行委員会方式で開催されたが、原水禁運動は核実験を行なった一方の当事国を平和勢力と規定し、政党色を前面に出し分裂していった日本共産党にみられるように、否定的状況にあります。私達が不安に思った

ことは、今集核会が二〇万人というまさに幅広い市民層まで総結集した集核会であったが、この責任政党が指導し、これからのように反核運動、平和運動を拡大してゆくの、明確にうちだしていかない事にあためて現在の革新政党の無能さを痛感しました。又、一方全国各地にはまだまだ闘う部隊は存在することをのあたりに見て逆に勇気を与えてくれたことも事実であります。

③3・21広島集核会が真剣に平和を求め、戦争に反対するため全国各地から広範な人民が集ったとするならば、戦争反対の心、軍事大国化反対の心は、現在、三里塚芝山反対同盟を中心に闘っている軍事空港を許さない闘いに必然的につながるし、広島集核会の圧倒的な結集力を、三里塚闘争へ決起させなければならぬと思いつつ帰路につききました。

去る三月一二日、勝浦市・御宿において、成田支部家族組合、勝浦支部家族組合の交流会が開催され、和気あいあいのうちに勤労千葉を支える家族組合の強化発展を

かちとる事を確認しあいました。

成田支部家族組合三役を先頭に勝浦支部をおとずれ、簡単なあいさつをかわしたのち、勝浦支部・窪田支部長と照岡執行委員の案内で、勝浦市の名勝・海中公園・御宿の記念公園等を見学したのち、御宿ニューハワイホテルで交流会を行ないました。

まず成田支部家族組合を代表して、高木会長から、

「成田支部家族組合は、勤労千葉の親組合をささえるものとして、微力ですががんばっています。先輩の作ってくれた組織を歴代の組

家族組合 成田勝浦交流会成功

ただき、交流会がもてたことをよろこぶとともに、成田支部家族組合にまけないようにこれからがんばっていききたい」とあいさつされました。つづいて、水野副会長より、勝浦支部家族組合の年間行事が発表されまし

た。十一月 親組合主催、団結運動会へ参加協力。

その他 勝浦市民運動会への参加。

等が発表され、自己紹介にうつりました。

などやかなうちに、第二部

